

第11回土岐川庄内川流域委員会 議事要旨

日時 : 平成18年9月27日(水) 13:30~17:15

場所 : 名古屋ガーデンパレス 3F 栄

1. 開会

2. 挨拶(中部地方整備局 庄内川河川事務所長)

3. 議事

第10回土岐川庄内川流域委員会議事要旨の確認及び第11回土岐川庄内川流域委員会の開催にあたって

第10回流域委員会議事要旨が確認されました。また、今回の流域委員会では議論に重点を置いた委員会の運営方法に変更しました。

河川整備計画(維持管理)の目標・整備メニュー(案)補足説明

第10回土岐川庄内川流域委員会で指摘を受けた維持管理について、補足説明を行い確認されました。

コレカラプロジェクトレポートVol.2の概要

コレカラプロジェクトレポートVol.2の概要について説明し、主に次のような意見を頂きました。

- ・ 河川整備計画の実施に際して、その途中段階でもモニタリング・評価とフィードバック等の一連のシステムの中で実施することを整備計画に位置付ける必要がある。
- ・ 現時点で活かせるモニタリング・評価とフィードバック等の手法については、現在の工事などにも反映して欲しい。
- ・ 整備計画を策定した後、P D C A(計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action))の具体的なシステムをつくり、統括的に継続して見るような仕組みなどをつくることが重要である。
- ・ 防災業務が地方自治体の役割となっていることから、国が自治体と連携を強化するとともにイニシアチブを取り、自治体に対する実効性のある支援や指導などの具体策を考えることが必要である。
- ・ 非常時に国と地方自治体の有機的な連携が図られるように、平常時から実行力のある会議や連携を図っておくことが重要である。

事務局からの提案議題

30年後の庄内川と新川の関係、新たな水質目標について、関係住民等からの

意見聴取方法について説明し、主に次のような意見を頂きました。

〔30年後の庄内川と新川の関係〕

- ・ 洗堰の機能と構造を明記した上で、庄内川と新川の関係や新川洗堰からの越流量などの説明をしないと分かりにくい。
- ・ 庄内川を救う代わりに新川が危険になる治水対策は取れないと思う。
- ・ 新川が安全になることは良いが、庄内川が危険になる治水対策は取れないので、庄内川を安全にした上で新川洗堰を閉めるのは当たり前なことだと思う。

〔新たな水質目標について〕

- ・ 生態系や親水面、景観面などで様々な指標があるが、市民団体などと連携して水質改善を目指すのであれば、川の地点ごとで目標を決める等の工夫をすれば効果を上げられるのではないか。

〔関係住民等からの意見聴取方法〕

- ・ 流域住民等から聴取した意見を流域委員会で議論するときの材料として、属性のある意見と属性の無い意見が分かるように流域委員会に提示すれば、その意見についての判断は流域委員会のなかで行う。

委員からの提案議題

河川整備のスケジュール（案）と庄内川の堤防詳細点検結果の概要について説明し、主に次のような意見を頂きました。

〔河川整備のスケジュール（案）〕

- ・ 当面は、庄内川のネックとなっている枇杷島地区よりも下流側の河川整備だけを進めるのではなく、下流への負担増とならない堤防の質的強化や環境整備など、流域全体でのサービスバランスも考えるべき。

〔庄内川の堤防詳細点検結果の概要〕

- ・ 庄内川の堤防の7割が浸透に対して質的に危険な状態というのは、破堤を起こさせないという観点からも、特に重要な問題かもしれない。
- ・ 浸透に対する堤防の質的脆弱性については、堤防をスライドダウン評価した場合の浸水想定などによりチェックしておく必要がある。
- ・ 川というのは溢れることが自然であり、河川管理者が責任を持って川を安全にすることは土台無理なことだと思うので、いざというときの対応を重視すべき。

今後の進め方

庄内川水系河川整備計画策定までのスケジュールおよび次回流域委員会の議事内容について説明し、確認されました。

4 . 閉会のあいさつ（中部地方整備局 河川部河川計画課長）

5 . 閉会